

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174300073		
法人名	有限会社 まごころ		
事業所名	グループホーム まごころ		
所在地	埼玉県本庄市西富田653-1		
自己評価作成日	平成22年1月27日	評価結果市町村受理日	平成22年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-">http://www.kohyo-</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(有)プログレ総合研究所
所在地	〒330-0846 埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階
訪問調査日	平成22年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>穏やかに過ごして頂く中で、利用者様一人ひとりが自立した生活を送って頂けるよう支援しています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開所以来、地域に密着した事業所として近隣の人々に受け入れられるよう、積極的に交流を深めており、お互いの行事での交流のほか、運営推進会議では毎回多方面の人々の参加を得ている。地域での認知度が上がるにつれて、地域の協力体制は大きくなっており、防災面では、事業所の救助要請を地域に知らせるベルを設置したり、近所の連絡網を作成する等の工夫をしている。職員は、「その人のペースに合わせる」ことを、意識徹底しており、言葉でのコミュニケーションが困難な場合でも、寄り添おうとする姿勢が大事であると考えている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員全員が自覚し、住み慣れた地域で安心した暮らしをしていただくよう努めている	利用者のペースに合わせる事を大切に考え、その理念を玄関ホールに壁に掲げるとともに、申し送り時に読み上げることで管理者と職員が共有し、日々のケアにあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買物等に出掛け、近隣の方々や顔なじみになり挨拶を交わしている	近所への散歩や買い物だけでなく、地域の納涼祭への参加を重ねることで、少しずつ顔なじみの関係となり、今では事業所の行事にも地域の人々が参加することが日常的になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々から認知症の相談を受けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地元の自治会長、近隣の方、利用者、家族、職員等の出席のもと開催され、防災防犯に関する事や緊急時の連絡網作り等の提案について意見交換をし、サービスの向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行い、積極的に地域の情報を収集したり、事業所の取り組み状況についての意見を求めてサービスの向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらう等して連携に努めている	市町村の窓口には、運営推進会議の出席要請をはじめ、事務的なことで連絡をとることが多いが、定期的な情報交換も行っており、協力関係を築くように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が正しく理解しているが、交通量の多い道路が近いため、やむをえず玄関の施錠は行っている	安全を意識するあまり、身体的拘束をすることのないよう、見守りの人員を多く配置している。安全面を考慮して、玄関は施錠しているが、要望があれば、安全に配慮して外出支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関して理解を深め、遵守に向け話し合い等行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全体が理解するまでには至っていないので勉強会等で学ぶ機会を作っていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間をとって丁寧に説明し、退居の条件等には納得を得よう説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用料の支払いに家族が来訪されるので、その機会に意見や要望を伺うように努めている。また家族会の場でも希望や意見等出してもらい、ホームの運営やケアの向上に活かしている	面会や家族会等で家族が来所した時には、状況報告だけでなく、意見や要望も聞くように努めている。そこで得た意見、要望は、検討し、事業所の運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回職員会議をもち、いろいろな意見を出し合い検討している	基本的には月一回の会議を意見や提案を聞く機会とし、そこで出た意見を業務改善に活かしている。日々の相談は、ユニットリーダーがまとめて、検討につなげる体制を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士や介護支援専門員等の資格を取得すると資格手当がついて、やりがいに繋がっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に参加した職員は報告を行い、その資料はいつでも閲覧できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	納涼祭に参加し交流を深めたり、運営推進会議に参加し合うことを話し合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談があった時は二人以上で本人に会いに行き、心身の状態等把握し、受け入れ後の関係づくりにつなげている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事や心配な事をゆっくり聞くことで信頼関係を作り、支援内容はできるだけ具体的に説明するようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、当ホームが満床の場合、本人、家族の状況等を確認し、待機者リストに載せず、他のサービスにつなげている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側ということではなくて、できる事はやっていただき、ありがとうございますの気持ちで共に楽しく心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時利用者とゆっくり過ごして頂き、生活状況を伝え、家族からの情報や要望を聞き、共に利用者を支えるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族はもちろん友人知人の方にも遊びに来てもらえるように明るい場をめざしている	家族、友人等がいつでも面会できるよう、面会時間は随時である。美容室等馴染みの場所への外出支援や買い物の同行等も行っているが、手紙の返事を出すまでの支援は行っていない。	馴染みの人との関係継続の支援の一つとして、外出支援以外にも手紙の返事を出す等支援内容の検討を期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やおやつ時等職員も同じテーブルにつき会話をし、利用者同士の関係の円滑に働きかけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期の入院になった方には見舞いに行く等、これまでの関係性を大切にしながら関わっている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声なき思いにも気付けるように、表情などにも気を配ることに努めている	利用者の意向に合わせられるよう日々把握に努めているが、困難な場合には、その日の健康状態や表情等から変化を読み取り、寄り添うことで意向を把握する努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの情報を共有化し、また生活歴等すぐに見ることができるようにしてある		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解すること、その方の思いを感じられるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしい暮らしをしていただくために、職員間で意見交換をしよりよい方向へと活用している	アセスメントで利用者、家族の希望を把握した後も、面会時には家族から意見、要望を聞き取り、それらを関係者で話し合っで見直し検討し、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分、バイタル、排泄等記録し、変化に気付ける環境づくりをしている。本人の言葉等も記録している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じ通院等の対応を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館の利用、ボランティアの演奏会、アニマルセラピー等にも来てもらい、いろいろな楽しみ方ができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、入居前からのかかりつけ医で医療を受けている方がいたり、訪問歯科、訪問リハビリも受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医への受診が可能である。協力医院による定期的な往診の他にも、24時間体制で内、外、精神科の医療機関が受診できる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医院の看護師には往診時等に情報を伝え、連携をはかっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供し、見舞いに行ったり家族とも情報交換したり、退院後の支援に向け準備している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向をふまえ、医師と連携をはかりながら、ホームでできる範囲のことを行っている	家族、本人には、契約時に事業所で出来ることを十分に説明して方針を共有している。重度化に近づいた時には、再度説明をし、医師と家族と相談しながら支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命法の学習をし会議の時等確認し合っている。夜勤時の緊急マニュアルを整備している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回近隣の方の協力も得て防災非難訓練を行っている	年2回地域の参加者も交えて避難訓練を行っている。近所に向けての非常ベルの設置や近所の連絡網作成等、災害時に近所の協力を得るための体制が構築されている。	今まで、避難訓練の想定がいつも一定であったので、夜間人員体制等、訓練内容の検討を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人の前であからさまな介護を行わないように、目立たずさりげない声かけを行っている	一人ひとりの人格を尊重し、声を出さずともさりげない行動でケアが行えるよう配慮している。職員は、利用者同士が良い関係を保てるよう見守り、利用者の思いを大切にしてお対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者一人ひとりのペースに合わせて、介護者ではなく利用者自身が行動できるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の買物や理美容院に行くこと等希望に添って対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度エステカットを利用している。また馴染みの美容院に通う人もいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、配膳、下膳等利用者に合わせ一緒に行っている	イベントの時には特別メニューを考え、食事を楽しくめるよう工夫している。調理の準備や配膳等を利用者の意向に合わせて利用者と職員が一緒に行っており、おやつを作ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量が一目でわかるように記録している。一人ひとりに合わせて食べやすく、飲み込みやすいように形状を変えている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。義歯の方は一週間に二回洗浄剤に浸けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを観察し、その人に合った対応を心がけている	プライバシーに配慮し、さりげない方法での支援を心がけている。排泄チェック表で一人ひとりのパターンを把握し、夜間であっても一人ひとり対応方法を変えて個別の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂ってもらったり、散歩や体操等体を動かす機会をつくるようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの方にゆっくりと入浴してもらえるように時間をとっている。入浴回数も希望に添った支援をしている	利用者の意向を大切にし、時間、曜日、回数も決めていない。浴室はとて広く開放的であるが、浴槽は家庭サイズであり、利用者が安心して入浴できるよう配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分のペースで休息できるように、また安眠できるように冷暖房の調節をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の内容を把握できるように薬情はまとめてあり、服薬時は本人に手渡しきちんと服薬できているか確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の得意なことで手伝ってもらったり教えてもらったりしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、美容院、買物等希望に添って外出できるように支援している	敷地内の散歩は自由であるが、外出の希望がある時には個別に対応している。初詣やお花見等、普段は行けないような場所には、家族や地域の人々と協力しながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している方がいて、購入したい物があると一緒に出掛け、買物している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望がある時には家族に電話をかけて話をしてもらっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間は安全と清潔を心がけ居心地の良い場所となるよう努力している。懐かしい音楽をかけたりしている	共用空間は利用者が快適に過ごせるよう、室温、照明、音、広さ等設備面でも配慮をされており、道路が近いにもかかわらず、静かに過ごすことができる。居間の壁には、利用者と職員が作成した物や写真が飾られ、家庭的な雰囲気が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所に座り、本を読む、音楽を聴く、話をする等自由に過ごせるよう支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は使い慣れた物を持ってきてもらい、自分の空間で生活してもらえるよう支援している	タンス、仏壇等馴染みの物を持参することが可能であり、利用者が居心地よく暮らせるよう配慮している。湿度、室温は職員がまめに調節し、快適に過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレ等十分な広さがあり、障害物となるような物は置かず、安全に生活できるように配慮している		